

さいたま市公民館運営審議会第3回会議 議事録

1 開催日時

令和6年5月24日（金） 14時00分から15時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：10名〉

- ① 加藤 美幸 委員長
- ② 磯田 三津子 副委員長
- ③ 太田 祐子 委員
- ④ 大塚 晶子 委員
- ⑤ 加藤 恒 委員
- ⑥ 小林 玲子 委員
- ⑦ 小森谷 由紀江 委員
- ⑧ 佐藤 一子 委員
- ⑨ 富田 敏弘 委員
- ⑩ 山口 哲生 委員

〈拠点公民館職員：8名〉

- ① 西 区 指扇公民館長 内ヶ嶋 直哉
- ② 大宮区 桜木公民館長 茂木 深雪
- ③ 見沼区 大砂土東公民館長補佐 松本 康
- ④ 中央区 鈴谷公民館長 掛川 雅世
- ⑤ 桜 区 田島公民館長 熊木 元巳
- ⑥ 南 区 文藏公民館長 桑原 健司
- ⑦ 緑 区 大古里公民館長 酒井 浩志
- ⑧ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 石関 達

〈事務局：8名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 岸 聖一
- ② 参事兼副館長 井出 浩史
- ③ 主幹兼事業・企画係長 山田 浩行
- ④ 事業・企画係主査 蜂谷 香織
- ⑤ 事業・企画係主査 曽根 啓佑
- ⑥ 事業・企画係主事 小暮 裕貴
- ⑦ 事業・企画係社会教育指導員 松本 みはる
- ⑧ 事業・企画係社会教育指導員 成尾 千里

4 欠席者

〈委員：3名〉

- ① 島田 正次
- ② 白石 徳一郎
- ③ 西形 恵美子

〈拠点公民館職員：2名〉

- ① 北 区 大砂土公民館長 武笠 充裕
- ② 浦和区 岸町公民館長 秦 利明

5 事務局からの報告、説明等

- ・前回会議録について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第3回会議 次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第3回会議 席次表
- (3) さいたま市公民館運営審議会第2回会議 議事録
- (4) 公民館主催事業 事業種別統計情報

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 内容

- ・冒頭、事務局より、4月の人事異動で新しく拠点公民館長になった館長の紹介、事務局職員の紹介を行った。
- ・前回会議録について報告を行った。

情報提供（公民館主催事業 事業種別統計情報）について

山口委員	平成25年から全体的に参加延べ人数がだんだん減少しているのに対し、講座の回数はかなり増え、事業数もわずかながら増えている。理由を知りたい。
事務局	特にコロナ禍以降、講座の定員を減らして実施しているが、その分回数を増やしたり、同じ内容の講座を分散して実施したりすることで、学びの機会を減らさないよう工夫している。現在、文化祭の実施館数が回復傾向であるなどの事情もあり、参加延べ人数は引き続き増加していくと考えている。

小森谷委員	子育て支援、子供向けとなっている事業の対象年齢を教えてほしい。
事務局	講座にもよるが、大きな割合を占める夏休みの子ども公民館事業は、主に中学生までを対象にしている。また「その他の事業」は多岐にわたるため、子どもを対象とする事業も一部含まれている。

議題 「公民館ビジョンに基づく取組の具体的な評価方法について」

前回のグループワークで挙がった4つの論点を検討し、具体的な評価方法について議論を行った。

加藤（美）委員長	<p>前回の会議で、拠点公民館長とグループワークを行い、まず公民館の事業を知ること、公民館ビジョンを理解してどう評価を行っていくか考えなくてはいけないと感じた。具体的な評価方法について意見を深め方向性を出していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① どのような観点、着眼点、内容や項目が必要か。 ② 評価するにあたり、資料だけで行うか、職員のプレゼンや現地視察などを行いながら評価をしていくのか。 ③ 每年全公民館を評価するのか、手分けして全員でやるのか、いくつかの館をローテーションしていくのか、事務局で推薦していただいた公民館を評価するのか。 ④ 評価結果や、今回議論している評価についての成果物をどうまとめいくのか。 <p>本日は①②③について方向性を定めていきたい。</p> <p>前回も出たように、数値による評価は馴染まないので、成長や工夫、改善や挑戦といった姿勢が評価できるとよいと思っている。</p>
加藤（恒）委員	<p>具体的な事業と公民館ビジョンとの関係性や、公民館ビジョンを実現するためにどんな工夫をしたのか、実施した結果はどうだったかなど、プレゼンで詳しく教えてもらいたい。それに対して、市民目線でよかつた点の評価や改善点の提案ができるかもしれない。</p> <p>ただし、これを全館で行うのは大変難しいと思うので、ローテーションしていく方式になると思う。</p>
小林委員	<p>さいたま市は広く、公民館数も多く、地域性がある。公民館ビジョンには3つの行動目標があるが、公民館が地域性も踏まえて、今年度ここに注力したいというのを前もって示していただけだと、評価しやすくなるのではないか。ルールを作ってしまうと、資料づくりにも時間がかかるしかえって評価が難しくなってくる。評価することが目的にならないようにすることが大事だと思う。</p>
加藤（美）委員長	<p>次年度の事業計画を検討する際、重点的に取り組むことを定め、委員にも示していただき、秋以降に報告、評価をしていくのが望ましい。</p>
山口委員	<p>目的と手段を取り違えてはいけないというのは、大変に重要なことであり、何のために評価を行うのかをはっきりさせる必要がある。加点法でやっていくというのがコンセンサスと思っている。よいことをやって、来館者に喜ん</p>

	でもらえていることをどんどん出して、他館がどんどん真似して取り入れられるとよい。そういう観点からすれば、項目があってそれをチェックするのではなく、独創的なオリジナリティ豊かな、地域性に富んだ事業を掘り起こしていくとよい。
加藤（美）委員長	各公民館でよいところを共有し、真似してもらい、公民館自体のレベルが上がり、事業がプラスアップされる。評価がそういう形で活用されると、とてもよい取組になると思う。
佐藤委員	<p>それぞれの館が取り組んでいるオリジナリティや努力に沿って話を聞きながら評価していく方向がよいと思っている。</p> <p>その中で、例えば利用者層の偏りやコロナからの復活など、公民館全体に関する悩みなどを取り上げて、その悩みを解決していくためにどんな努力がされているか、というところで評価がされるとよい。</p> <p>さいたま市のオンライン化の取組は、慣れない人にはやりにくいが、新しい層の利用者が生まれる効果もあるかもしれない。トータルの人数には表れないが、新たな参加があるとすれば、これはプラスの評価になる。</p> <p>一般に、事業の評価は参加者や団体数などの量的な指標で行うことが多いが、質的な部分に応えるには、ポイント的に焦点を当て、どう努力され成果を上げているかが大切になる。改めて拠点公民館長と一緒に、今直面している悩みについて、絞り込む議論をやるのもよいと思う。</p> <p>さいたま市は良心的な運営をしてくれているが、利用者の声や職員の悩みなど個別の観点から見ることも大事だと思う。地域性や立場、年齢層などのデータ収集のためアンケートで聞いてみるのも面白い。</p>
加藤（美）委員長	アンケートを行う公民館の規模や種類によって、傾向がでてくるかもしれない。利用者の声をもとに評価していくのも大事なことだと思う。公民館の抱える悩みや課題の解決に挑戦した事例が出てくるとよい。
小林委員	公民館ビジョンは市民に向かってのものと思うが、評価ポイントの提案の一つとして、公民館が内省的に向上を図る点、るべき姿やその実現に向けてどこまで取り組むか、といった点を提示していただけるとよい。担当者の感覚だけでなく、審議会と公民館が一体となって良いものにしていくことが大事である。
小森谷委員	利用者や利用団体の声、公民館と一緒に支えている運営協議会の委員からもお話を聞きたい。公民館のあり方がより深堀されると思う。
大塚委員	<p>学校の研究指定校のように、特定の公民館に関して工夫や特徴、改善点を見出すアプローチを行い、議論の過程や取組の成果を全公民館が共有し、参考にする形式はどうか。公民館ビジョンそのものの評価は難しいが、具体的な対象があると評価しやすい。</p> <p>ただ、評価のために公民館に新たなお願いをするのは厳しい面もあるので、公民館の事業計画や運営方針などを理解し公民館を身近なものと感じるために、委員自らが動くことも必要だと思う。</p>
山口委員	公民館はこうあるべしという画一的なものがあるのか。そこまで厳格でなけ

	<p>れば、館ごとに特色や個性があって、地区全体でバランスがとれているような運営ができるとよいと思う。</p> <p>また、審議会による評価を踏まえて、拠点公民館長が円滑に公民館を運営できることが本意だと考えている。その意味で、拠点公民館長がこれまでの議論をどう理解されたか、意見を聞きながら進めていきたい。</p>
加藤（美）委員長	グループワークをはじめ、情報共有や意見交換の機会が必要だと思う。拠点公民館長の意見については、適宜情報提供してもらえるとありがたい。
磯田副委員長	プレゼンで話していただけるなら、お互い一方通行にならないよう対話していけるとよい。地域の強みや悩み、公民館の特徴や公民館ビジョンとの関係について理解を深めていきたい。例えば3館からプレゼンテーションをしてもらい、全体で90分ほど時間があれば、相互に比較ができ、刺激になり、よりよい取組になるよう学び合える関係性ができる。
小林委員	指標や評価基準が固まっていないと館長もプレゼンをしづらいと思う。イメージとして、発表する館の目指す姿があらかじめ示されるとよい。
加藤（美）委員長	<p>ゼロから資料を作るのでは職員の負担も大きいため、既存の取組シートや報告書をベースに考えるとよいのではないか。その中で、公民館ビジョンの目指す方向性と具体的な取組の関係性、館として目指す姿などが示されているとよい。</p> <p>これまでの議論を整理してみると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとにプレゼン及び公民館との対話をを行う。 ・評価の対象は全館ではなくいくつかの館を選出する。 ・館同士で学び合えるような形にする。 ・重点的に取り組む事項を3～4月に示していただき、委員による評価は秋以降に行う。 ・利用者の声が出され、それが見える形で反映されるとよい。 ・選出の際は、地区や拠点公民館・地区公民館といった規模など、グループ分けして検討したほうがよい。 ・プレゼンの内容については、うまくいっている事業だけでなく、課題解決のために挑戦している事業などもあるとよい。 ・利用者や運営協議会など、市民の声も聞きたい。
富田委員	<p>毎年60館すべてを評価するのは大変厳しいので、区ごとに選出するなどの工夫が必要だと思っていた。</p> <p>現地視察をするとなると、委員の日程調整が大変だと思う。</p> <p>また、地元で馴染みのある公民館と、初めて知る公民館の取組とでは公平に評価するのは難しいと感じている。</p>
太田委員	主役は市民や利用される方だと思うが、考え方は人によって様々なので、すべての要望を聞こうとすると公民館の運営自体が立ち行かないと思う。
加藤（美）委員長	公民館事業をよりよく、より人気を高めるための評価をしたい。そのため公民館の良さをPRしたいが、公民館がどう変わったか、頑張っているかをどう市民に伝えていったらよいのか。

加藤（恒）委員	第1回の審議会から、事業の評価は難しいと感じていたが、やはり公民館の応援になるような評価をしたい。 特に人員配置や予算など、公民館だけでは解決できない課題もあると思うので、この審議会での議論がそうした課題解決の助けになればよい。 我々が公民館の応援団になり、さらに応援団を増やせるような評価をしていきたい。
山口委員	応援団を増やすためには、地道な口コミや仲間づくりしかないと思う。 行政の業績評価と違い、数値や細かな点を見るのではなく、市民目線から公民館の取組の良いところをPRする、「イイね」を出すのが我々審議会の役目だと思う。
加藤（美）委員長	公民館ビジョンができてから、公民館は様々なことに挑戦し、特色ある取組を実施している。こうした取組に「イイね」を押すようなイメージで、審議会が公民館をPRしていく姿勢を持ちたい。
佐藤委員	公民館の応援団という方向性は、とても元気がでる。 さいたま市の公民館のよさについて、委員と認識を共有し、それを前提に評価に取り組みたいと思う。 本の収蔵数や貸し出し冊数などのわかりやすい基準がある図書館に比べ、公民館は良さが多種多様で基準自体が定義しづらい。 さいたま市の公民館は全部で60館もあり、合併前の規模を維持している。その上無料で使えることから利用者も多く、活発に活動している稀有な例である。こうしたベーシックなよさを出し合い、これまで努力してきた部分と、これから挑戦すべき課題、利用者のニーズなどを協議していくといふ。ベーシックなよさという点については、適宜情報提供が必要であり、事務局でデータを幾つか出してほしい。
加藤（美）委員長	公民館に関するデータや、評価に向けたシートのひな型などについて、次回の会議で事務局から提供してもらい、議論を進めていきたい。

11 その他

次回の開催日時については委員長と協議の上、後日通知すること、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールで開催予定であることを報告した。

12 閉会